



## 2024年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年5月10日

上場会社名 株式会社enish 上場取引所 東  
コード番号 3667 URL <https://www.enish.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 安徳 孝平  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理本部長 (氏名) 魚屋 和彦 TEL 03(6447)4020  
四半期報告書提出予定日 2024年5月13日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年12月期第1四半期の業績（2024年1月1日～2024年3月31日）

#### (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期第1四半期	819	△3.6	△182	-	△195	-	△196	-
2023年12月期第1四半期	849	△19.7	△302	-	△312	-	△313	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期第1四半期	△9.11	-
2023年12月期第1四半期	△18.17	-

(注) 2023年12月期第1四半期及び2024年12月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年12月期第1四半期	1,698	402	23.4	18.14
2023年12月期	1,893	508	26.7	23.43

(参考) 自己資本 2024年12月期第1四半期 397百万円 2023年12月期 504百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2024年12月期	-	-	-	-	-
2024年12月期（予想）	-	-	-	-	-

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無  
2024年12月期の配当予想につきましては、現在未定であります。

### 3. 2024年12月期の業績予想（2024年1月1日～2024年12月31日）

2024年12月期の業績予想につきましては、現時点で合理的な業績予想の算定ができないことから記載しておりません。  
なお、当該理由等につきましては、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年12月期1Q	21,883,560株	2023年12月期	21,543,560株
② 期末自己株式数	2024年12月期1Q	550株	2023年12月期	51株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年12月期1Q	21,547,105株	2023年12月期1Q	17,243,509株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（1）経営成績に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第1四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(セグメント情報等) .....	6
(重要な後発事象) .....	7
3. その他 .....	8
継続企業の前提に関する重要事象等 .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和により、社会経済活動に正常化の動きがある一方、世界的な原材料高騰による物価上昇の影響で、景気の先行きは極めて不透明な状況が続いております。

当社においては、従業員の安全性を考慮し、恒久的なテレワーク（在宅勤務）制度を導入しており、通勤時間が不要になるなど、従業員満足度の向上が図られたとともに、場所を問わずチーム体制が有効に機能したこともあり、ゲームアプリの運用・開発面での生産性向上につながっております。

このような事業環境の中、既存タイトルについては、運営施策の工夫により売上の減を最小限に抑え、リリース2周年を迎えた大人気作品『進撃の巨人』のスマートフォンゲーム「進撃の巨人 Brave Order」は、2023年11月にアニメ『進撃の巨人 The Final Season完結編（後編）』の放送・配信に伴い、新規ユーザーの流入や呼び戻し施策等により、売上が好調であり引き続き当社の業績に貢献しております。今後もゲーム内のさらなる活性化を図るため、出演人気声優を起用した公式放送を行い、番組とゲームで連動した企画の実施や機能改善など、引き続き魅力的なイベント施策を行い、収益寄与につなげてまいります。

リリース4年目を迎えたアニメ『五等分の花嫁』初のスマートフォンゲーム「五等分の花嫁 五つ子ちゃんはパズルを五等分できない。」は、累計800万ダウンロードを突破し、当社の業績に貢献しております。イベント施策や書き下ろしイラストの充実など、引き続き魅力的な施策を行い収益寄与につなげてまいります。

リリース14年目を迎えた「ぼくのレストラン2」や「ガルショ☆」は、コラボレーション施策等が好調に推移し、引き続き当社の売上収益に大きく貢献しております。よりきめ細やかな対応を図り、ユーザーの皆様の満足度向上に努めてまいります。

2023年6月15日にリリースいたしましたアニメ『ゆるキャン△』初となるオンラインゲーム「ゆるキャン△ つなげるみんなのオールインワン!!」は、2024年2月1日から3月31日まで長期メンテナンスを実施したため、収益貢献は限定的となりましたが、新機能の追加や機能改善を行い、今後の収益寄与につなげてまいります。

また、足元の状況としては、累計ダウンロード数900万突破のスマートフォン向けドラマチック共闘オンラインRPG「De:Lithe～忘却の真王と盟約の天使～」をベースとした、モバイルゲームクオリティのブロックチェーンゲーム「De:Lithe Last Memories（ディライズ ラストメモリーズ）」を2024年6月リリースに向けて鋭意開発中があります。クリプトファンにもモバイルゲームプレイヤーにも満足頂けるものを提供してまいりたいと考えております。今後も開発の進捗状況等については、積極的にプレスリリース等でお伝えしていく予定であります。

さらに、当社は、全世界でサービス提供中のゲームプラットフォーム「Roblox」に向けた『ドラえもん』のアクションレースゲーム「ドラえもん のび太のゴーゴーライド!」を2024年3月28日にリリースいたしました。ゲーム内のさらなる活性化のため、本格的なプロモーションを実施していき、今後の収益寄与につなげてまいります。なお「Roblox」へのゲーム配信は、パブリッシングをGeekOut株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：田中創一朗）が、開発・運営をenishが行う、2社の協業体制で実施してまいります。

なお、当社は株式会社HashPaletteより不当利益返還請求として176百万円の訴訟が提起されておりますが、今後、先方の主張及び請求内容を精査し適切に対処してまいります。今後の進捗に伴い、開示すべき事項が判明した場合には、すみやかにお知らせいたします。

当事業年度においては、既存タイトルの効果的運営を推進するとともに、ブロックチェーンゲーム開発に人材を投入しております。引き続き、有力案件を確保し、ブロックチェーンゲームを含め年1～2本ペースでの新規タイトルリリースを行うことにより利益を積み上げ、企業価値向上を図ってまいります。

この結果、当第1四半期累計期間の業績は、売上高は819百万円（前年同四半期比3.6%の減少）、営業損失は182百万円（前年同四半期は302百万円の営業損失）、経常損失は195百万円（前年同四半期は312百万円の経常損失）、四半期純損失は196百万円（前年同四半期は313百万円の四半期純損失）となっております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期会計期間末の流動資産につきましては、前事業年度末に比べて194百万円減少し、1,411百万円となりました。これは主に、現金及び預金の減少（前事業年度末比93百万円の減少）、売掛金の減少（前事業年度末比68百万円の減少）によるものであります。固定資産につきましては286百万円となりました。

この結果、総資産は、前事業年度末に比べ194百万円減少し、1,698百万円となりました。

(負債)

当第1四半期会計期間末の流動負債につきましては、前事業年度末に比べて88百万円減少し、1,291百万円となりました。これは主に、買掛金の減少（前事業年度末比29百万円の減少）、契約負債の減少（前事業年度末比43百万円の減少）によるものであります。固定負債につきましては4百万円となりました。

この結果、負債合計は、前事業年度末に比べ88百万円減少し、1,295百万円となりました。

(純資産)

当第1四半期会計期間末の純資産につきましては、前事業年度末に比べて105百万円減少し、402百万円となりました。これは主に、四半期純損失を196百万円計上したものの、第三者割当による行使価額修正条項付第17回新株予約権の権利行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ44百万円増加したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年12月期につきましては、既存タイトルの売上高の維持と効率的な運営体制の見直しを行い収益力の強化を図ってまいります。また、売上収益の拡大を目的に、新規で年間1～2タイトルをリリースしていく方針です。今後の新規タイトルにつきましては、新規開発に注力できる体制を構築・維持することで、開発の長期化や開発費の高騰など各種リスクの低減を図りながら、高品質なタイトルの開発を行ってまいります。

さらに、ブロックチェーンゲーム市場の急速な拡大と活性化のなかで、当社はブロックチェーン技術を活用したサービス開発に早期参入しノウハウと知見を獲得し、グローバル展開も視野に入れた、ブロックチェーンを活用した魅力的なゲームの開発及び関連事業への展開を行ってまいります。

業績予想につきましては、モバイルゲーム事業を取り巻く環境の変化が激しく、当社の業績も短期的に大きく変動する可能性があること等から、信頼性の高い業績予想数値を算出することが困難となっているため、決算業績及び事業の概況の速やかな開示に努め、業績予想について開示は見合わせております。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年12月31日)	当第1四半期会計期間 (2024年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,093,586	1,000,226
売掛金	371,333	302,973
前払費用	80,942	94,988
その他	59,898	13,475
流動資産合計	1,605,761	1,411,662
固定資産		
有形固定資産	15,399	15,208
無形固定資産	1,252	1,134
投資その他の資産		
投資有価証券	40,659	40,659
関係会社株式	133,580	133,580
敷金及び保証金	85,160	85,160
その他	11,582	11,218
投資その他の資産合計	270,982	270,618
固定資産合計	287,634	286,961
資産合計	1,893,395	1,698,624
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	129,772	99,808
短期借入金	750,000	750,000
未払金	115,238	98,968
契約負債	323,872	280,309
その他	61,681	62,724
流動負債合計	1,380,564	1,291,810
固定負債		
その他	4,286	4,123
固定負債合計	4,286	4,123
負債合計	1,384,851	1,295,933
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,757,545	3,801,980
資本剰余金	3,756,545	3,800,980
利益剰余金	△7,009,271	△7,205,656
自己株式	△40	△162
株主資本合計	504,779	397,140
新株予約権	3,765	5,550
純資産合計	508,544	402,691
負債純資産合計	1,893,395	1,698,624

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)	当第1四半期累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)
売上高	849,812	819,187
売上原価	983,345	832,418
売上総損失(△)	△133,533	△13,230
販売費及び一般管理費	169,179	169,607
営業損失(△)	△302,712	△182,837
営業外収益		
受取利息	523	51
過年度消費税等	—	6,000
その他	728	169
営業外収益合計	1,251	6,221
営業外費用		
支払利息	11,006	15,761
株式交付費	—	190
その他	—	2,867
営業外費用合計	11,006	18,818
経常損失(△)	△312,467	△195,434
税引前四半期純損失(△)	△312,467	△195,434
法人税、住民税及び事業税	951	950
法人税等合計	951	950
四半期純損失(△)	△313,418	△196,385

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社は、前事業年度まで9期連続となる営業損失及び10期連続となるマイナスの営業キャッシュ・フローを計上しており、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社は、当該事象又は状況を解消し事業基盤及び財務基盤の安定化を実現するために、以下の対応策を講じております。

①事業基盤の安定化

徹底的なコスト削減や、事業の選択と集中により、事業基盤の安定化を図ってまいります。具体的には、既存タイトルについては、各タイトルの収益状況に応じた人員配置を行うなど運営体制の見直しを継続的に行うことによりコスト削減を図るほか、その中においても収益が見込めない既存タイトルについては、それらの事業譲渡・配信終了も視野に対応する方針であります。また、他社IPタイトルとのコラボレーションを実施するなど、他社IPの協力を得ることによりユーザーのログイン回数や滞在時間の増加を図り、売上収益の拡大を進めてまいります。今後の新規タイトルにつきましては、新規開発に注力できる体制を構築・維持することで、高品質なタイトルの開発を推進いたします。人員体制及び協力企業の制作力・技術力を踏まえ、過去事例を参考に慎重に工数を見積もることで、開発スケジュールの遅延等による開発費の増加が生じないよう努めてまいります。また、IPの価値と経済条件を踏まえ収益性が高く見込まれるタイトルに対して優先的に開発・運営人員を配置することにより、当社の収益改善を図ってまいります。

②財務基盤の安定化

財務面につきましては、財務基盤の安定化のため、複数社の取引金融機関や協業先と良好な関係性を築いており、引き続き協力を頂くための協議を進めております。なお、2024年3月21日付で発行した第三者割当による行使価額修正条項付第17回新株予約権が2024年3月31日までに3,400個行使された結果、88,740千円の資金調達をしており、財務基盤の安定化が図られております。売上高やコスト等の会社状況を注視し、必要に応じてすみやかな各種対応策の実行をしてまいります。

上記の対応策を講じていくとしても、既存タイトルの売上動向、新規タイトルの売上見込及び運営タイトルの各種コスト削減については将来の予測を含んでおり、引き続き業績の回復状況を慎重に見極める必要があることから、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期財務諸表に反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、当第1四半期累計期間において、新株予約権の行使に伴い新株式340,000株の発行を行いました。この結果、当第1四半期累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ44,434千円増加し、当第1四半期会計期間末において資本金が3,801,980千円、資本準備金が3,800,980千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、エンターテインメント事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。



## (重要な後発事象)

## (第17回新株予約権の行使による増資)

当第1四半期累計期間終了後、2024年4月30日までに第三者割当による行使価額修正条項付第17回新株予約権の一部が行使されております。その概要は以下のとおりです。

①行使された新株予約権の行使個数	7,800個
②発行した種類及び株式数	普通株式 780,000株
③行使価額の総額	181,700千円
④資本金増加額	90,850千円
⑤資本剰余金増加額	90,850千円

上記の結果、2024年4月30日現在の普通株式の発行済株式総数は22,323,560株、資本金は3,848,543千円、資本剰余金は3,847,543千円となっております。

## (借入金の一部期限前返済)

当社は、2024年4月30日開催の取締役会において、借入金の一部について期限前返済を行うことを決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

## 1. 本返済の内容

- (1) 返済金額 250百万円
- (2) 返済日 2024年4月30日
- (3) 返済原資 第17回新株予約権の発行及び行使による調達資金

## 2. 本返済を行う借入金の内容

- (1) 借入先 モルガン・スタンレー・クレジット・プロダクツ・ジャパン株式会社
- (2) 借入金額 750百万円
- (3) 借入金利 借入先指定の固定金利  
(借入先との守秘義務により詳細の開示は控えさせていただきます。)
- (4) 借入実行日 2023年6月30日
- (5) 返済期日 2024年8月30日
- (6) 返済方法 期限一括返済
- (7) 担保の有無 無担保・無保証

## 3. 本返済後の借入金の内容

- (1) 借入先 モルガン・スタンレー・クレジット・プロダクツ・ジャパン株式会社
- (2) 借入金額 500百万円
- (3) 借入金利 借入先指定の固定金利  
(借入先との守秘義務により詳細の開示は控えさせていただきます。)
- (4) 借入実行日 2023年6月30日
- (5) 返済期日 2024年8月30日
- (6) 返済方法 期限一括返済
- (7) 担保の有無 無担保・無保証

## 4. 借入金の一部期限前返済の理由

当社は、ブロックチェーンゲームへの進出、新規タイトルの開発及び既存タイトルの運営を継続的に進めるためには財務基盤の安定化を図る必要があります。2024年3月4日開示「第三者割当による第17回及び第18回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行及び新株予約権の買取契約（コミット・イシュー※）の締結に関するお知らせ」のとおり、本新株予約権の発行及び行使により資金調達を行い、返済資金を確保したことから、借入依存度の低減を目的として、既存の借入金について一部期限前返済を行うものであります。

### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、前事業年度まで9期連続となる営業損失及び10期連続となるマイナスの営業キャッシュ・フローを計上しており、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

なお、詳細につきましては、「2. 四半期財務諸表及び主な注記(3) 四半期財務諸表に関する注記事項(継続企業の前提に関する注記)」に記載しております。